

「戦後80年 玉名の戦争と戦時下の暮らし ～平和の絵手紙展にむけて～」

1/7版

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 本田涼子・高谷和生

1 はじめに ～戦後80年の諸相～

- 戦後世代としての「私の視点」～近現代考古学との出会い～
- 戦争遺跡保存全国ネットワーク全国運営委員、空襲・戦跡九州ネットワーク事務局長
- 平和憲法を活かす熊本県民の会、菊池恵楓園ボランティアガイド、一般社団法人 くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会

2 熊本の戦争遺跡・遺産

(1) 戦争遺跡とは

- 全国の戦争遺跡は「約50,000」件、指定登録は「319」件
2021年10月2日現在
- 熊本県内の太平洋戦争期の戦争遺跡総数は、多数の特殊地下壕を含めた「723件」
- くまもとの戦争遺産』内の一覧表には「249件」を精査し記載
- 熊本県内の指定登録文化財は国148件、県383件、市町村3,382件、国登録文化財156件の計2,382件



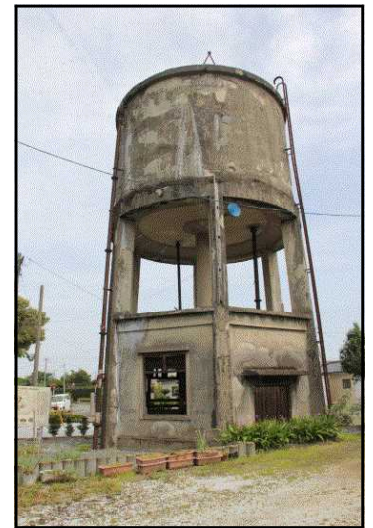
1945年8月10日米軍機市街地空襲。AIと証言でカラー化

(2) 西南戦争期の指定等 ※熊本県による悉皆調査は未実施

西南戦争遺跡群（国指定、熊本市・玉東町）、明德官軍墓地（熊本市）、七本官軍墓地（熊本市）、花崗山陸軍埋葬地（熊本市）、旧輜重兵六聯隊衛兵所（熊本市）、有栖川の宮御督戦の地（玉東町）、篠原国幹戦傷の地（玉東町）、城の原官軍墓地（南関町）、肥猪町官軍墓地（南関町）、陣内官軍墓地（水俣市）、下岩官軍墓地（和水町）、高瀬官軍墓地（玉名市）、田浦官軍墓地（芦北町）、峰崎官軍墓地（芦北町）の計14件

(3) 太平洋戦争期の指定等

「花房飛行場給水塔」（陸軍菊池飛行場高架水槽・菊池市指定有形文化財）、「永山の掩体壕」（陸軍人吉秘匿飛行場木製有蓋掩体壕・球磨郡あさぎり町登録文化財建造物）の2件。また、合志市の「黒石原飛行場奉安殿」は、保存修復事業を進めており、完了後に国登録文化財となる予定である。また、「東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所変電所」は、荒尾市が所蔵・管理している。



菊池市指定文化財「花房飛行場給水塔」菊池飛行場

(4) 熊本の「戦争の歴史」をたどる

～熊本に残された戦争の傷跡「七大特徴」～

※高谷和生著『くまもとの戦争遺産 戦後75年平和を祈って』熊日出版 第42回熊日出版文化賞大賞・第34回地方出版文化賞最優秀賞の受賞 ※県による悉皆調査は「未実施」

①軍都熊本市の軍事施設

～熊本城から東部の大江・渡鹿地区への軍施設の移転～

②九州で三番目に多い陸海軍飛行場

～正規飛行場、本土決戦に向けての特攻秘匿飛行場の実相～

③東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所

～軍直営で石炭を原料とした黄色火薬の生産。製品は小倉へ～

④三菱重工業熊本航空機製作所と学校工場・地下工場

～陸軍四式重爆撃機「飛龍」の生産～

⑤本土決戦に向けての天草地区砲台、震洋等の特攻艇基地と兵站基地としての人吉地区の飛行場・地下工場・地下壕群

⑤-1

- 錦町立「人吉海軍航空基地資料館」 2018（平成30年）年8月1日開館
～山の中の海軍の町にしき ひみつ基地ミュージアム
- 意見書提示（同年9月）回答なし。新たな「靖国史観」への危惧

- 戦争や戦争遺跡を美化したり、集客目的に利用する「戦跡の観光地化・商品化」「民間事業者への委託」「歴史事実の歪曲・矮小化」ではないか。展示説明・解説は果たして十分か
- 集客のための「海軍九三式中等練習機」実寸レプリカ、「何を学ぶ」のか
- 何でもありの「地域づくり」、文化財活用の誤用、行政がからむ「プチ遊就館」
- 県民「学ぶ旅」観光のあり方、「戦争遺跡の学び（ダークツーリズム）」の本質とは
- 十五年戦争につながった「満州戦蹟保存運動」の反省から学ぶ！

⑤-2

- 八代海での陸軍特攻艇「マルレ艇基地」の実態把握、佐敷国民学校への逗留

⑥県内各地に残る空襲・戦災「被害の歴史」

⑦朝鮮人や中国人、連合軍「俘虜」労働者、「敵機捕獲搭乗員」への「加害の歴史」

⑦-1 通称「田浦捕虜収容所」。使役企業は「東海電極株式会社 田浦工場」で、「福岡俘虜収容所第六派遣所」が設置

- 捕虜収容所は、三回移転し、最後は工場から南橋を渡り海岸際に位置する。現地には建物基礎・井戸等が現存
- 内訳は、102名（米2・英97・NZ3名）、死亡3名
- 日本国は、「戦時中の労働力不足」を補うため、約37,000人を、全国130箇所に使役。死者は約3,500人
- 「俘虜待遇条約（ジュネーブ条約）」準用での「違反行為」
- 暴動抑止のため大牟田「福岡俘虜第二十五分所」へ移動。使役企業は、電気化学工業株式会社大牟田工場



田浦捕虜収容所での1944年12月、日本軍によるプロパガンダ「クリスマスイベント」

3 玉名の戦争

(1) 陸軍玉名（大浜）飛行場

※平和継承リーフレット『大浜飛行場』・『同 II』

①沿革と概要

- 大刀洗陸軍飛行学校玉名教育隊、練習基地・錬成基地

②空襲の被害

- 1945年5月10日「B29が二機」・13日「艦載機」の空襲

③空襲の加害

- 第二回熊本大空襲(昭和20年8月10日 米陸軍第5航空軍 第507戦闘機隊第465中隊所属のP47「アール・グラハム」少尉機の玉名市永徳寺への撃墜と死体凌辱

④特攻隊

- 九三式中間練習機による特攻「第九十・九十一振武隊」

⑤何を、だれに伝えるか

- 戦争の実相を凝縮、有明中学校、大浜小学校、玉名町小学校での地域・平和学習



大浜飛行場のユングマン練習機

(2) 陸軍高射第三百三十二聯隊桃田陣地

①交通インフラの防衛

- 高瀬川橋梁を守る陸軍・海軍の三部隊

②第二回熊本大空襲での防空

③残された戦争の遺構・遺物

- 高射砲弾・弾薬を入れた「弾薬壕」
- 高瀬尋常小学校裏に掘られた「兵員退避壕」

④歴史の何を伝えるか

- 空襲の歴史、本土決戦準備



桃田陣地の高射砲 ※同型例

(3) 空襲と紙の爆弾「伝単（でんたん）」 [資料 1]

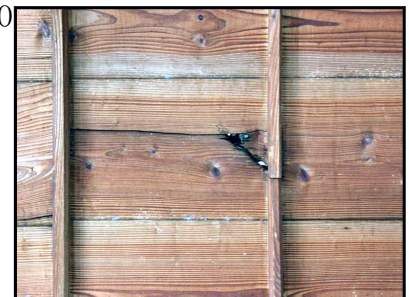
- 昭和20年8月、熊本市・天草他「伝単五種」を投下
- 日本国民に告ぐ伝単、無条件降伏の意義伝単、ポツダム宣言伝単、トルーマン伝単 他 約50万枚

- 昭和二十年八月十二日熊本日新聞に「熊本市に紙の爆弾伝単の内容を喋れば厳罰敵の思想謀略」記事が掲載され。熊本市内での伝単投下を、8月10日「第2回熊本大空襲」当日が「初投下」とであると報道

- 戦場及び占領地、敵国（内地・銃後）への「情報戦」
- 玉名市川島「一本えのき」での森高清氏の目撃証言

(4) 大野下駅の悲劇 「鬼のツメ」

- 昭和20年8月12日、大野下駅への陸軍「p-38」機銃掃射
- 兄の切符を買いに来ていた「国民学校初等科 女子児童」が、亡くなる。



大野下駅機銃掃射「鬼のツメ」

(5) 長崎原爆の実相

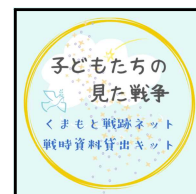
- ナガサキ 三重の悲劇

- KUMAMOTO 候補地16箇所の一つ。「3マイル候補地」
- 玉名・熊本県北の上空を飛んだ、長崎原爆投下機「ボックスカー」
- 1945年11月1日からの、九州上陸「オリンピック作戦」、沖縄の悲劇
→続く九州への「原爆投下」と「毒ガス」攻撃

4 戦時下の暮らし

(1) くまもと戦跡ネット「出前平和講座」 [資料 2]

- 有明中学校、大浜小学校、豊水小学校 他
- 玉名町小学校、菊水小学校、合志楓の森小学校、熊本学園大付属中学校、熊本市花園小学校



(2) 戦時資料貸出キット「子どもたちの見た戦争」 [資料 3]

- 第一弾、9月上旬より貸出開始 築山小学校 他三校
- ちいちゃんセット、一つの花セット、軍国少年少女セット、勤労働員セット、金属代用品セット
- くまもと戦跡ネットHPを参照ください!



(3) 身近な平和の活動

- 一般社団法人「くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会」活動
令和6年は、不知火美術館をはじめ、県内6箇所「戦時資料巡回展」
令和7年は、県立美術館分館「くまもと平和ミュージアム設立に向けての企画展（仮）」
- 街角サロン「馬空」での「平和のコラボ企画」第三弾
令和6年は「子どもが読んだ戦時絵本 ～平和の紙芝居づくり～」

5 まとめ ～「戦後80年」、「昭和100年」 歴史へ移行する分かれ目～

- ウクライナ戦争、ガザ戦闘と重なる「太平洋戦争」と「玉名・熊本の戦争」の姿
特別軍事作戦＝満州事変、SNS＝プロパガンダリーフレット、捕虜＝戦時捕獲搭乗員 他

□史実に込められた「歴史の重み」、昭和の歴史の教訓化、「新しい戦前」

□一人ひとりが戦争遺跡・遺産と向き合い「語り手」「継承者」として語り継ぐ

熊日社説 9 / 25 「記憶の継承へ保存進めて ～消失する戦争遺跡～」 [資料 4]

- ①戦争遺跡の調査、保存、継承・活用
- ②戦争遺跡・遺産は、貴重な歴史資料として「国民共有の財産“文化財”」
- ③庶民の戦時資料の調査と継承は「地域協働の平和学」

□日本被団協 ノーベル平和賞受賞をとおして

- 8月23（土）もしくは24日（日）午後「長崎被爆体験証言会と紙芝居（仮）」を開催
- 証言者は、長崎原爆体験の「浦田藤江さん（94歳・玉名市岱明町）」
- 当日は、紙芝居作成者の越智さん及び高校生平和大使等活動の高校生も参加予定

□「2025平和の絵手紙」展で何を伝えるのか!!

私たちひとり一人の新たな平和運動・活動



連絡先

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表
平和憲法を活かす熊本県民の会 代表幹事 高谷 和生
高谷携帯 090-1513-5528
Eメール takayanagi912@yahoo.co.jp
HP URL https://www.kumamoto-senseki.net/

[資料 1]



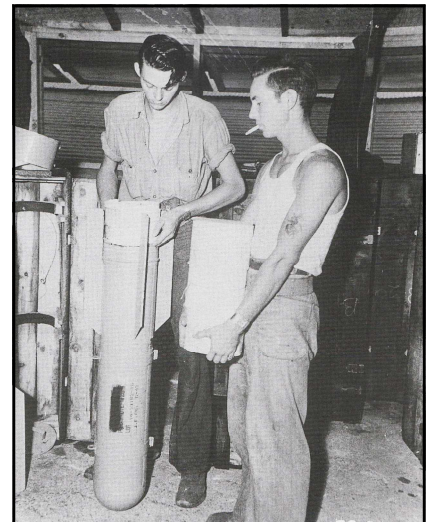
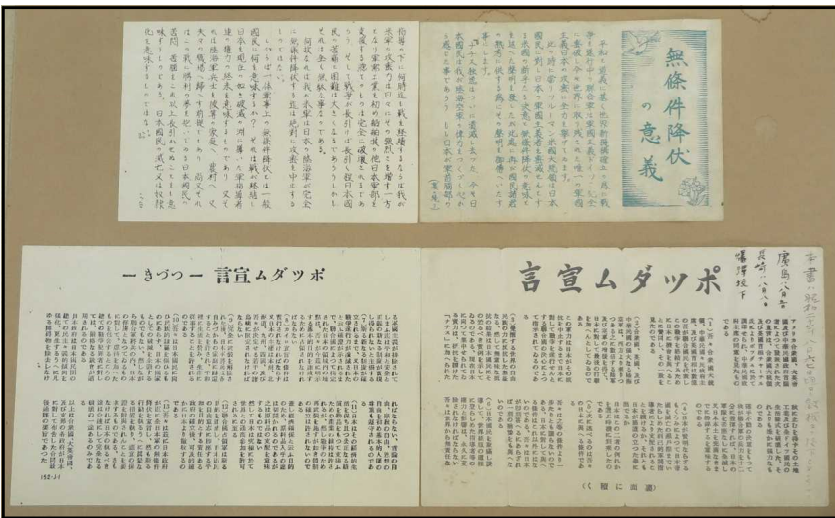
資料1 昭和二十年八月十二日
熊本日新聞「熊本市に紙の爆弾」
※該当部分のみトリミング

資料2 極東航空軍 リーフレット配布一覧
「熊本・松橋・川尻」が記載されている。
早稲田大学 土屋礼子氏提供
National Archive RG496, Entry441,
Box2714 米国公文書館所蔵

DECLASSIFIED Authority *NUV 883029* By *PNARA* Date *9/22/03* RG496 Entry 441 Box. 2714

HEADQUARTERS
ADVON, FAR EAST AIR FORCE

LEAFLET	QUANTITY	TARGET	DATE	PLANE
129-J-1	200,000	Fukuoka, HONSHU	8-11-45	B-24
144-J-1	925,000	"	8-11-45	B-24
129-J-1	200,000	Kyoto, HONSHU	8-10-45	B-24
144-J-1	520,000	"	8-10-45	B-24
129-J-1	200,000	Osaka, HONSHU	8-11-45	B-24
144-J-1	925,000	"	8-11-45	B-24
137-J-1	135,000	Chiran A/D area, KYUSHU	8-7-45	B-25
144-J-1	180,000	"	8-11-45	B-25
137-J-1	90,000	Communications on east KYUSHU	8-8-45	B-25
144-J-1	165,000	"	8-11-45	B-25
137-J-1	360,000	Iwakuni, KYUSHU	8-9-45	B-24
152-J-1	150,000	"	8-9-45	B-24
129-J-1	70,000	Kagoshima, KYUSHU	8-7-45	B-24
129-J-1	200,000	"	8-10-45	B-24
137-J-1	120,000	"	8-6-45	B-25
144-J-1	800,000	"	8-10-45	B-24
137-J-1	25,000	Kumamoto, KYUSHU	8-9-45	B-25
152-J-1	75,000	"	8-9-45	B-25
152-J-1	85,000	"	8-10-45	B-25
152-J-1	215,000	"	8-10-45	B-24
152-J-1	15,000	Kurume Tosu, KYUSHU	8-11-45	A-26
137-J-1	30,000	Masubase, Kawasini, KYUSHU	8-9-45	B-25
152-J-1	75,000	"	8-9-45	B-25
129-J-1	60,000	Matsuyama, KYUSHU	8-8-45	B-24
144-J-1	600,000	"	8-11-45	B-24
118-J-1	165,000	Mayakanojo, KYUSHU	8-6-45	B-24
118-J-1	10,000	"	8-6-45	B-25
137-J-1	325,000	"	8-6-45	B-24
137-J-1	125,000	"	8-6-45	B-25
137-J-1	170,000	Omuta, KYUSHU	8-7-45	B-24



左 熊本で実際に投下された「伝単 二種」 両資料ともに右側が「現物」、左側が「複写」である。
上段「無条件降伏の意義」伝単 下段「ポツダム宣言」伝単 熊日新聞社新聞博物館所蔵
右 2名の海兵が、M26弾殻利用の「T-1・M105 100ポンド伝単爆弾」にリーフレットの束を詰めている様子
『八王子空襲の記録』より

熊本
KUMAMOTO

問い合わせは
配達申し込み
の申し込み
購読の申し込み
0120-44-0120
(午前6時～午後8時)

▼熊本支局
☎096(323)1851
FAX(323)1853

あすの潮	(小潮)	9月8日
日暮	日暮	7:30
日入	日入	17:50
日出	日出	6:17
日没	日没	13:08
酒潮	酒潮	13:02
10日	三角港	6:14
	水保港	6:22
	長洲港	6:28
	牛深港	6:34
	10日	7:04
	10日	19:45
	10日	13:02
	10日	23:19

玉名でも見えたきのこ雲

市民団体 玉名町小で平和講座

市民団体「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」による出前平和講座が4日、玉名市の玉名町小であった。「玉名の戦争を知ろう」がテーマ。6年生108人が、11月に平和学習を兼ねて長崎市に修学旅行をするのを前に、玉名からも長崎原爆のきのこ雲が見えたことや、玉名と戦争の関わりなどを学んだ。

長崎原爆わがこととして

ネットワーク代表の高谷 米軍の空襲の標的になり、和生さん(70)は、旧陸軍の防空壕に避難した一家4人、飛行場があったため玉名が「が死んだこと、今も直



旧陸軍兵士の服装や鉄かぶと、装備品の重さを体験する児童。戦時中の機銃掃射の弾や学用品の実物に触れる玉名町小6年生



径約20センチの爆撃跡が残ることを説明。原爆については「熊本も全国16カ所の投下候補地の一つだった。日本が降伏していなかったら、熊本など九州の各都市に原爆が落とされたかもしれない」と、わがこととして考えるよう呼びかけた。

玉名歴史研究会顧問の森高清さん(91)は旧国民学校時代、疎開途中の列車で米軍の機銃掃射を受けた際の恐怖や、長崎原爆投下で玉

名市高瀬の自宅の窓が稲光のように光った後、おくもくこと上がるきのこ雲が見えたことを話した。「戦争で多くの国民が苦しみを味わった。一方で日本のため

に苦しめられた中国や朝鮮半島の人もいたと回顧した森さん。「戦争は何のためにもならない。絶対に繰り返すことがないように、あの時代のことをしっかりと勉強してほしい」と訴えた。

田島航さん(11)は「玉名や熊本でも、戦争でいろんな被害があったことを知った。長崎の被害についても学び、自分たちがどうしていいかわからなかった」と話した。(宮田良)

戦争被害 地域の遺跡に実感

合志楓の森小児童



奉安殿を見学する合志楓の森小の児童らー7日、合志市

修学旅行前「奉安殿」見学

児童たちは旧陸軍黒石原飛行場跡にある、天皇、皇后の写真や教育勅

令(豊田宏美)

合志楓の森小(合志市)の6年生約120人が7日、長崎への修学旅行を前に、地域に残る戦争遺跡を見学。身近な場所でも、戦争による被害があったことを学んだ。同校は毎年、「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」の高谷和生代表(70)＝玉名市＝を招き、事前学習をしている。今回は初めて、学校周辺でのフィールドワークを実施した。

児童たちは旧陸軍黒石原飛行場跡にある、天皇、皇后の写真や教育勅令(豊田宏美)

谷川映恵さんと徳永映和さんは「戦争といえば長崎や広島と聞いていたが、身近な場所にも戦争遺跡があることが分かったと話した。修学旅行では25、26日、長崎市の平和公園や原爆資料館を見学する。

語を安置した「奉安殿」を訪問。高谷さんから「熊本県内では唯一、当時の場所に残る奉安殿」と説明を受けた。

また、高谷さんは、熊本再春医療センターの前身の一国立療養所再春荘」が米軍機の空襲を受け、職員6人が亡くなったと紹介。「戦争による被害は、皆さんの近くでも起こっていた」と強調した。

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク代表の高谷和生さん(70)は、これまで取り組んできた戦争関連遺跡や遺構の調査に加えて、防空頭巾やもんぺ、教科書などの実物資料を学校などに貸し出す取り組みを始める。「子どもたちに実際に手に触れてもらい、質感を知って当時の生活を想像してほしい」と願っている。(中村由加里)

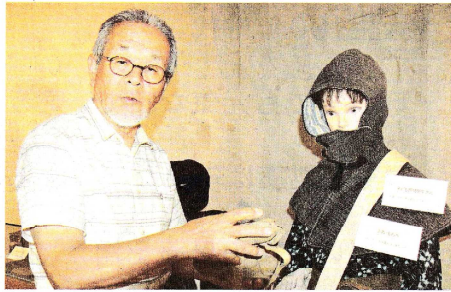
玉名市立歴史博物館(ころびア)では8月31日まで、「子どもたちが見た戦争」展が開かれた。展示品のうち出征を祝うのぼりや国民服など約60点は、高谷さんら同ネットワークが出品した。熊本地震で被災した住宅で行ったレスキュー活動で入手したものや、活動に賛同した人から提供を受けたものだ。



戦争の資料 触れて感じて

防空頭巾や制服貸し出し

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク代表
高谷 和生さん 70



▲ 防空頭巾やもんぺなどの貸し出しイベントを紹介する高谷さん

どの「勤労動員の旧制中学生・高女生セット」など5種類に分類されている。9月から県内の学校や職域団体に貸し出しを予定しており、来年には新たに5種類を追加することとしている。

高谷さんは玉名市出身。玉名高で考古学部に入り、九州自動車道の建設工事前に行われた埋蔵文化財発掘調査に参加した。「土器な

◇プロフィール◇ 1954年生まれ。「戦争遺跡保存全国ネットワーク」の運営委員も務める。文援教育に携わり、30歳代後半で熊本大の大学院で重度障害を持つ子どもたちへの教育理論を学んだ。座右の銘は「人間万事塞翁が馬」。

どの遺物が出土するたびにドキドキした。こんなことをこれからもできれば」と国学院大で考古学を専攻し、細文時代を研究した。卒業後は県の教員採用試験に合格。教員を務める一方、県教育委員会にも出向して天草、阿蘇など各地の発掘調査にも携わった。

近代の戦争遺跡との出会いは、50歳を前に荒尾支援学校に赴任したとき。炭鉱

町として知られた荒尾だが、市内には炭鉱関連施設だけでなく、廃墟として残っているよくわからないコンクリート造の建造物があった。「わからないなら自分で調べるしかない」と休日を使って調査に着手、戦時中の火薬工場「東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所」(荒尾一造)の全容を明らかにし、写真付きの報告書にまとめた。

戦争体験者の高齢化が進み「記憶の風化が進むなか戦争遺跡は「物言わぬ語り部」にして目立ってきて。各地で保存を求める動きが起きているが、多くは老朽化や再開発を理由に次々と姿を消している。

高谷さんが今、実物資料というモノに着目したのは、「すこしばかりの資料でも、ガラス越しではなく実際に触れることで、他人事ではなく自分事として捉えてほしい」という思いからだ。

子どもたちが戦争と平和について学ぶ機会は減少している。「子どもたちに歴史をどう伝えるか」を考るのが歴史研究家の使命。キットが平和学習にこそ役立ててほしい」と考えている。

子どもたちの見た戦争

くまもと戦跡ネット 戦時資料貸出キット

戦時資料貸出キット「子どもたちの見た戦争」は、2011年熊本県立歴史博物館の戦時資料展示「くまもとの戦争」を基に制作された。くまもとの戦争、九州のうきん、熊本県立歴史博物館の戦時資料です。

子どもたちに伝えたかった戦時資料を「無料」で貸出します。

県内諸学校での平和学習、職域団体等での平和活動、資料館での展示・学習などに活用できます。年間貸出1回ずつで、貸出人数は1回ごとに決まっています。

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク
https://kumamoto-senseki.net/

貸出キット「子どもたちの見た戦争」第1弾セット

No1 ちいちゃんセット No2 一つの花セット No3 南国少年少女セット No4 勤労動員セット No5 金属代用品セット

貸出キット規約

- 貸出は、非営利で「無料」です。基本、熊本県内の学校・職域団体等に限定です。
- または、玉名市立歴史博物館(たかたに)自宅での「貸取り+返却」となります。
- または、メールで高谷(takayanagi@12@yahoo.co.jp)まで、各セットの空き状況等をお問い合わせください。併せて、授業形態や授業内容の確認もお願いします。
- 希望等の調整のため、予定日「1ヶ月前」頃までにご連絡ください。
- 実施予定日の「前10日・後10日」の計21日間、貸出となります。
- 毎年貸出を希望しますが、毎年4月1日からの貸付となります。
- 申請書は熊本県庁P「https://www.kumamoto-senseki.net/」からダウンロードしてください。
- HP右側「1」の「戦時資料貸出キット「子どもたちの見た戦争」」で概要を確認ください。
- 本貸出システムは、9月上旬より開始予定です。HPをご確認ください。

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワークとは？

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 202407

No1 ちいちゃんセット

あまみきこ作「ちいちゃんのかげおくり」(小学校3・4年級国語教科書用紙)の複製と関連する実物資料のセットです。お申し込みください。

番号	資料名・概要	備考
1	子ども用防空頭巾、戦闘用頭巾	
2	上履、もんぺ	
3	子ども用練習用リュック(複製品)	
4	アルマイト製木箱、開閉木箱	
5	民間防衛隊	
6	伝言セット	
7	7し飯(複製品)	
8	サマドロップ(複製品)	
9	国語学校教科書、筆箱、鉛筆	
10	その他(出版たすき、短冊袋、寄せ書き台紙)	

記憶の継承へ保存進めて

消失する戦争遺跡

所在地のリストを入手。43都道府県の216市区町村にアンケートを実施して現状を聞いた。

熊本市内からの報告は、熊本市の「田原坂古戦場」「騎兵第6連隊兵舎跡」「歩兵第十三連隊食堂の跡」と、天草市の「天草海軍航空隊遺構」。騎兵第6連隊兵舎跡

自治体からは、財源の確保が難しいため、保存に向けた国の財政的支援を求める声が多い。現存する戦争遺跡を全て保存するのは、費用や安全性の観点からも困難だろう。文化庁は「まだ調査の報告書を刊行していないが、早急に結果をまとめて分析し、保存の対象や基準などの方針を示してもらいたい。」

自治体が独自で保存を進めている例もある。神奈川県川崎市は「地域文化財顕彰制度」を創設し、旧陸軍登戸研究所を選んだ。北海道別海町は旧陸軍飛行場の施設跡を「歴史文化遺産」として保護している。国が地域の戦争遺跡をよく



太平洋戦争関連の旧軍施設を主とした戦争遺跡について、文化庁の近代遺跡調査に市区町村から報告があった642遺跡のうち約3割が、開発や劣化などのため消失または大部分が消失し、原形をとどめていないことが明らかになった。来年は戦後80年を迎える。戦争体験者が少なくなる中、遺跡を通じて記憶の継承は重要だ。実態の把握や保存に向けた対策が望まれる。

文化庁の調査は1996年に始まった。国による調査としては唯一とされ、幕末・開国ころから第2次世界大戦終結ころの「軍事に関する遺跡」を対象としている。共同通信が情報公開請求で遺跡と

知る自治体と連携し、調査や保存に予算措置を講じるなどの施策も考える必要があるだろう。

一方で、各地の市民団体が戦争遺跡の調査や啓発活動に取り組んでいる。熊本では、くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワークが県内の遺跡の調査や、結果をまとめたリーフレットの作成、見学会などを続けている。戦争関連の資料館設立を目指す取り組みもある。このような民間の活動に、行政が協力していくことも重要ではないか。

は現存せず、天草海軍航空隊遺構は大半が消失、残る2遺跡は現存となっている。

消失した遺跡について市区町村に理由を尋ねたところ、住民や所有者の意向による取り壊し、開発や建て替えによる工事、経年劣化などが挙げられた。安全性が確保できず解体された例もあった。天草

自治体は「歴史文化遺産」として保護している。国が地域の戦争遺跡をよく

軍都とされた熊本には、文化庁に報告された4例の他にも、菊池飛行場(菊池市)や人吉海軍航空基地(錦町)など、数多くの戦争遺跡が残っている。こうした戦争の拠点となった施設だけでなく、戦災の痕跡を残す遺構もあるはずだ。戦争の記憶を伝え、平和を考える貴重な遺産として後世に残していきたい。